



「災害が私達の町で起こったら？」 公的機関の役割



阪神淡路大震災から10年の節目を迎えた事に加え、昨年は、中越地震が発生し、多様なメディアによって災害対策の重要性が伝えられています。また、昨年は栄区でも10月の台風22号の影響を大きく受け、笠間地区は、浸水の被害に見舞われ、住民の方が被災されました。

度重なる自然災害が、私達に多くの警告を与えています。

しかい……その警告に、個人や地域は十分な対策を講じているのでしょうか？

○あなたは、突発的に起こる災害に、冷静に、適切な行動をとるための知識や情報を備えていますか？

○あなたは、災害に備え家庭での備蓄品の準備、避難場所等の確認ができていますか？

○あなたは、災害時の状況を想定し、家族で連絡方法、集合場所など相談しあっていますか？

○あなたの地域には、災害時、避難にリスクのある高齢者や障害のある方がお住まいになっています。

その方々をそのように地域で支えあいますか？

私達は、大規模災害が、今、私達の町に起こったら、多くの問題が起こることに気付きつつも、その対応に積極的な姿勢を持っていないのではないのでしょうか。

「ひろば」では、「身近な地域の災害対策」を、皆が安心して生き生きと生活できる町であることの重要テーマのひとつに捕らえ、今号より取り組みを進めていきたいと思えます。

11号では、－ 栄区の災害対策の現状と私達の防災対策

12号では、－ 災害時、活動が期待されるボランティア活動

13号では、－ 総括、災害対策の現状課題と今後

目 次

| | |
|--------------------------|-------|
| 今すぐ始めよう家庭と地域の災害対策 | 2p～5p |
| 第13回桂台地域ケアプラザ 支え合い全体会 報告 | 6p |
| 井戸端しちやおう会(特プロ)、思春期講座 | 7p |
| おもちゃ文庫、編集後記 | 8p |

今すぐはじめるよう家庭と地域の災害対策

誰もが避けて通りたい、そして考えたくないけれど、考えておかなければならない事のひとつに、大きく持上げられている最大関心事…それが震災被災地域に該当しているという事ではないでしょうか。何となく判っているようですが、いざ具体的にどうするかと聞かれたら即座に返答できる人は少ないのが実情でしょう。桂台地域ケアプラザ支えあい連絡会では昨年の台風 22 号による床上浸水被害など、身近な地域での災害を目の当りにし、災害時の緊急対策の必要性などについて話し合われる機会がとて多くなりました。まずは、自分達の出来る所から始めて、災害に強い町づくりをはじめませんか！



来ていますか？ あなたの家族の災害対策

あなた自身の災害に対する危機管理意識、
または、家族やご近所との災害対策は万全ですか？



今後、何十年かの中に大地震の起る確率についての研究結果が報告されています。いつ起ってもおかしくない地震に私たちは、皆不安を感じつつも、自ら具体的な、対策をとるまでに行かない方が圧倒的に多いのではないのでしょうか。けれども、次の3つの事から実行してみませんか？

家庭の防災会議を開こう！

家族の役割り分担、
家屋の危険箇所チェック、
家具の安全な配置と転倒防止対策、
非常時持ち出し品 のチェックと入れ替え、補充
被災後の集合場所
被災後の連絡先

自主防災組織への参加

家庭での日頃の備え、
いざと言うときの心構え、
近所の人達との協力関係作り
自分たちの町は自分たちで守り
災害に強い地域を作りましょう
私たちの町にも地域防災拠点ごとに防災組織が作られています。是非参加してください

地域の支え合いの意識を持ちましょう！

災害弱者を守りましょう
高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、
児童など、災害時に大きなハンデを持った人達の安全を守るために、このような方々の所在を迅速に把握し、地域が一丸となって積極的に支援が行われる必要があります
お隣近所、ごく身近な地域の日頃からの助け合い、支え合いの関係が大切

非常時持ち出し品(非常用備蓄品含)はどれだけ必要？

震災直後は各家庭で用意した3日分の「非常用備蓄品」を食し、あるいは活用します。

飲料水、乾パン、缶詰
レトルト食品等

下着、雨具、タオル、生理用品、
紙オムツ、寝袋、ティッシュ

救急医薬品、常備薬の予備、予備のメガネ、
帽子、底のしっかりした靴(枕元へ)

携帯ラジオ、懐中電灯、予備の電池、軍手、ロープ、マッチやライター、使い捨てカイロ、厚手のゴミ袋

現金、預金通帳や有価証券の写し、認印、
健康保険証の写し

日頃の備えが、あなたや地域を守ります！



★ 避難勧告・指示が出されたら

- ・ 近くの学校や公園、
- ・ 空き地など広くて安全な場所へ避難します

★ 災発時、先ず唱えて実行

- ・ 身の安全の確保
- ・ すばやく火の始末
- ・ とり近所の助け合い

知っていますか？あなたの避難場所

あなた自身の災害に対する危機管理意識、
または、家族やご近所との災害対策・・・万全ですか？

[避難場所一覧] 一度は避難場所までの経路を確認しよう！！

| | 所在地 | 該当自治会町内会名または割り当て地区（ブロック） |
|--------------|------------|--|
| 地域防災拠点 | 公田小学校 | 朝日平和台,公田ハイツ,椎郷台,湘南ハイツ,地崎工業、桂公田の一部。 グリーンテラス本郷台 |
| | 桂台小学校 | NECアパート,桂台団地,公田町団地,桂台,湘南桂台の一部 |
| | 桂台中学校 | 湘南桂台の一部 |
| | 矢沢小学校 | 湘南桂台の一部,犬山の一部,上之町の一部、上郷ネオポリスの一部 |
| | 犬山小学校 | フーラ桂台,湘南桂台の一部,犬山の一部,尾月,上之町の一部,亀井町,上郷の一部 |
| | 上郷南小学校 | 上郷の一部,庄戸一丁目,庄戸二丁目 |
| | 庄戸中学校 | 上郷の一部,庄戸三丁目,庄戸四丁目,庄戸五丁目 |
| 救護拠点 地域医療 | 桂台中学校 | |
| | 上郷中学校 | |
| | 庄戸中学校 | |
| 場所 広域避難 | 公田団地 | 公田町の一部、桂台北、桂台中、桂台西1～2丁目、桂台東、桂台南1丁目、桂台南2丁目の1部 |
| | 鎌倉カントリークラブ | 上郷町の一部、庄戸1～5丁目、東上郷町、上之町、亀井町、尾月、犬山町、桂台南2丁目の1部 |

地域防災拠点運営委員会を知っていますか！？

～地域の人を中心となって災害時の“生活拠点”を運営します～

平成7年1月に発生した阪神淡路大地震を貴重な教訓に、実践的な観点から地震対策を見直しし、震災時避難場所の指定を行いました。指定された小中学校は大災害時、家での生活が困難になった場合の一時的な生活場所として「地域防災拠点」となり

安心して避難生活を送る場所となり

3日間程度の食糧や水が備蓄され、災害時に必要な資機材を備え

家族の安否が確認できる

等の機能を持つ場となります。

運営は地域代表の皆さん、拠点学校の校長・副校長さんや区役所の担当の方から構成される「運営委員会」が担当します。「運営委員会」は、発災時対応の詳細なマニュアルを整備し、日頃から防災訓練や避難路のチェックなどを行い、災害発生に備えています。



地域医療救護拠点って知っていますか

～軽い病気やケガに対応する応急医療を行います～



自宅近くの診療所などが診療を行っていただければ、まずそこで受診しますが、災害時には「地域医療救護拠点」が設置され、応急医療を行います。必要な医療品や医療資機材が備蓄され、医師、看護師、薬剤師等から編成された医療救護班が対応し、比較的軽い病気や負傷が創傷、打撲、骨折、熱傷の軽・中傷であれば手当てを受けられます。重症などの場合は、代替医療施設等の情報を提供します。



重症の場合

地域医療救護拠点で対応できない重傷者は医療救護拠点から中核病院等の医療機関に救急車で移送します。重傷者については、市立病院、南部病院、横浜栄共済病院で治療を受けます。

広域避難場所がどこであるか知っていますか？

～大火災などから逃れるための一時避難場所です～

地震等による大火災が発生し、炎症拡大した場合、その輻射熱や煙から生命、身体を守るために一時的に避難する場所です。

居住地によっては、広域避難場所までの距離がある方もいるでしょう。また、鎌倉カントリーの場合出入り口の認知や施錠の問題、公田団地は避難者集中の場合の対応等、懸念されるところがあります。

居住地近くの、公園の利用も含め、市民としても安全な避難場所について考えて行きましょう。

防災訓練に参加していますか？

～日頃からの訓練が災害時により落ち着いた行動に繋がります！！～

「運営委員会」は、年2回1月17日の防災とボランティアの日と9月1日の防災の日前後に避難誘導、応急救護、炊き出し、避難所運営に関する訓練や種々の道具類を使いこなすことが出来る人材を養成する技術班対象の訓練などの防災訓練を行っています。

防災訓練等には家族で積極的に参加し、防災拠点運営のルールを知り、避難経路などを確認すると共に、地域のみなさんと協力できる体制を整えておきましょう。こうした訓練を重ねることにより、発災時により落ち着いた行動が可能となり、災害への対応力の向上に繋がります。

情報はどこから得ますか？

～正確な情報を入手して、行動を起こそう～

発災直後は、行政の体制が整わないので、まずは、ラジオやテレビから得ることになります。区役所では広報車などにより最新の情報を流し、必要に応じ、指示や勧告を出します。「地域防災拠点」では、区本部からの情報を「被害等情報カード」などにより、掲示板などで広報します。また、避難した人々の名簿を作成し、家族安否の情報を提供します。



災害発生直後、頼りになるのは、誰ですか！？

～一番頼りになるのは“隣近所の助け合い”！ 日頃からその意識を！！～

災害発生直後に一番頼りになるのは、行政（区役所など）ではありません。やはり“隣近所の皆さんの力”です。常日頃から地域の皆さんと交流し、地域に溶け込んでおくことが大切であるのは、阪神大震災や中越地震の事例からも明確になっています。

あなたの家族にお年よりはいらっしゃいますか？

災害弱者とは・・・要援助高齢者、障害者、妊産婦
乳幼児、児童など災害時に大きなハンデを持つであろう人

[特別避難場所一覧表]

| 避難場所 | 電 話 | 対象者 |
|---------------|------------|-----|
| 翠風荘(老人福祉センター) | 891 - 4141 | 高齢者 |
| 桂台地域ケアプラザ | 897 - 1111 | 高齢者 |
| 本郷養護学校 | 894 - 2952 | 障害者 |

要援護者対策

ひとり暮らしや寝たきりのお年寄り、また痴呆のお年寄りや心身に障害のある方については町の防災組織等地域の住民組織と民生委員、児童委員、友愛活動推進員等との連携により安全確認、救出、誘導活動を行います

この様に災害弱者への特別避難場所がある事を、地域の皆さんに是非知って欲しいと思います。

桂台地域ケアプラザは開設以来 6 年になりますが、まだ避難場所として動いた事はありません。しかし、台風や降雪などにより、日常、デイサービスを利用していらっしゃる高齢の方に、帰宅時間の配慮や、在宅でのサービスを利用していらっしゃる高齢の方に、帰宅時間の配慮や、在宅でのサービスの調整はこれまでも行ってきています。

大規模災害が起れば、高齢者が多く、しかもひとり暮らしや老老世帯の多い地域に災害弱者と捉える必要がある方が沢山いらっしゃるでしょう。身近な地域の助け合いも重要ですが、特別避難場所としている福祉施設等とも、連携を取り、支援していく事が必要になっていくでしょう。



より詳しい災害に関する知識や情報を知ろう！

ホームページや栄区発行の解説書を見ましょう

- ・横浜市ホームページ

総務局災害対策失防防災計画の概要 <http://www.city.yokohama.jp/me/bousai/EQ/index.html>

- ・横浜市栄区ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/sakae/somu/bousai/ichiran.html>

- ・栄区発行「大地震を生きぬくために」 “あなたを守るのはあなた自身”（各戸配布） など。

第13回桂台地域ケアプラザ 支え合い全体会 報告

名の出席者によって2005年3月11日第13回全体会が開かれた。佐塚コーディネータ最後の全体会ともなった。

1. 「災害と地域の役割」

と言う共通課題で、栄区社協飯田氏から関係8団体による2月19日に行われたパネルディスカッションの、本郷中央連合保健活動推進委員斎藤氏と上郷西連合地区社協竹内氏から各連合での話し合い、湘南桂台自治会梅津氏から中越地震被災地ボランティア体験談、広報分科会内山氏から「ひろば」取材のヒヤリング途中結果が報告された。

(要旨)全員に共通する事は、『安全確保には地域の日頃の付き合い、顔の見える関係が有るか無いかにかが掛かっている』と言う同じ結論だった。確かに、緊急時の物資確保や設備の確保は重要ではあるが、かなりの充足度に達している。しかし、災害弱者の被害を最小にする為には、日頃から近所の人達との人間関係が出来ていないと難しい事が、違った方面からの検討でも同じ結論に行き着いている。災害弱者でない人達も、無関心や対岸の火事的な

考えが蔓延していて、それを地域でどう目覚ませるかが重要な課題と考えられている。毎年訓練では、効果が少ない事。地域ケアプラザの役割や、支え合い連絡会全体の役割も、具体的に検討する時期に来ている事が確認された。心強い事は、どこの議論も核心へ迫りつつある事だ。中越地震ボラの体験としては、地域の指導者達がストレスで判断能力が著しく低下していた事実を指摘していた。間接的ながら、重要な支援材料だと思った。

2. 「地域見守りネットワーク」 栄区事業企画島田氏

「地域福祉計画」の中から上記の現状報告と今後への期待が説明された。

(要旨)当地域では効果が見られた定期訪問事業が見直しとなり、『地域見守り活動推進事業』が発足する事の説明がなされた。インフォーマルサービスの重要性を改めて認識しなおした事。地域ケアプラザを中心とした支え合い連絡会の活動力を評価し、ケアプラザを核とした活動を今

まで以上にバックアップする計画が説明された。インフォーマルサービスに期待する状況は理解できたが、最善の策を模索する為に、今後地域の役員とインフォーマルサービスに携わっている人達との打ち合わせを5月に開催する予定。

3. 「分科会報告」

本郷中央地区社協亀沢氏から「ストップ・ザ悪徳商法」、子育て分科会の高橋氏から「井戸端サロン」、扇谷氏から栄区子育て支援団体連絡会の、内田氏と佐川氏から「おもちゃ文庫」「思春期講座」、ボランティア分科会中村氏と和泉氏からは「家事支援グループの子育て支援」「放課後児童育成」、地域づくりの会から「わくわくスポーツ大会」、広報分科会鎌石氏から「横浜市地域ネットワーク応援」講座に参加した報告があった。それぞれの最近の分科会活動の報告である。

(要旨)栄警察署の生活安全課からお巡りさんも講師として参加して頂いた講座では、最近の詐欺の手口を芝居仕立てにして解説し、防衛の手法等を具体的に説明してくれたそうだ。これは地域づくり分科会の活動。子育て支援分科会は、井戸端会議で母親の連携の輪が出来ていく様子、父親も参加した料理教室(大会?)など、地道な活動が成果を上げている様子が報告された。色々知恵を出し合って新企画の催しを考えて行くとの事。一方、区社協の子育て支援団体連絡会議では、具体的な行動の為の議論より、手続き問題や管理の問題ばかりが議論されており、当事者である母親の出席と母親自身の話題を出して議論する

場に変えて行きたいと感想が述べられた。「おもちゃ文庫」では、参加者が増えている事、祖父母が孫を連れての参加や、幼児を眺めていて母親が何をすべきか学ぶ場面が多いとか、行事の効果が報告された。グループ桂台からは、家事支援要請と共に子育て支援の要請も増えて活動の変化が要求されて来た事と報告があった。放課後児童育成検討会からは、放課後の居場所づくりの検討会が始まり、ケアプラザが事務局を担当して月一回の検討会を開いてきた事を報告。市福祉局主催の「地域ネットワーク応援講座」では、桂台の支え合いが断トツに進んでいる事を知ったと嬉しい報告がされた。以上

家族みんなで どちらの料理ショー

- 井戸端しちやおう会 特別プログラム -

2月27日(日)、10時から、桂台地域ケアプラザ2階多目的ホールにおいて、子育て支援分科会桂台地域交流部門主催の井戸端しちやおう会特別プログラムとして“家族みんなで どちらの料理ショー”が開催されました。2~7



お子さんも奮闘

歳のお子さん16人、お母さん11人、お父さん6人が参加され、

スタッフ等を含め総勢40人の賑やかな会となりました。

味噌煮込みうどんチーム、餃子チーム、ポテトサラダ・杏仁豆腐チームに別れ、料理の出来栄を競い合うという内容でしたが、料理の企画から



料理開始前の作戦会議

材料調達までをお母さん達が協力して行い、会始まって以来初めて“お

父さんの参加”が実現して、大変な盛り上がりを見せました。

出来上がったお料理は、いずれも甲乙付け難い素晴らしいで、皆さんで美味しく頂きました。お料理が出

来るまでの間、小さなお子様には「保育の会」の方に紙芝居でのお話やパネルを使ったお勉強会をしていただき、お子さんの笑顔や歓声が聞こえただけでなく、お父さんやお母さんも時間の経つのを忘れて、楽しまれた様子でした。



包丁裁きもプロ級？

村田朋美さんの感想文

いつもは小食な娘がうどんをほとんど食べ、ギョーザを四つも食べたのには驚きと、ママの作るご飯はおいしくないの？！と複雑ではありましたが、本当においしくて楽しいイベントでした。ママとお子さんは知ってるけど、一生懸命料理したり、子供たちと歌を歌ったりしているパパたちは微笑ましくて、こないだ家族がいっぱい住んでるこの地域がまた好きになりました。

藤間秀夫さんの感想文

妻に連れられて「どちらの料理ショー」に参加しました。この日は丁度長男の4才の誕生日で、沢山のひとと一緒に過ごせて良い思い出になりました。私は料理担当で、ポテトサラダ・杏仁豆腐班になり、その包丁さばきから「きゅうりの達人」と異名を頂きました。ただ料理を作るには時間的に慌しく、もう少し余裕があれば、もっと手の込んだものも作れたのではないかと思います。

今回は料理がテーマでしたが、また何かテーマを設けて情報交換をする場があるとよいのではないのでしょうか。

私は大工なので、やはり[子どもを育てる器]としての家に対して、同世代のみなさんがどのような考えをお持ちなのか気になります。地域ぐるみで子どもを育てるという意味で、今後も父親も交えた企画があると良いと思います。

「思春期の子育て講座」報告

子どもをとりまく環境がめまぐるしく変化している現代において、「自分らしく生きるためにはどうしたらよいのか」をテーマに4回にわたる講座を開催しました。「引きこもり」の事例や「不登校」の子どもを持つ親としての体験、また「ニート」と呼ばれる若者の実態や犯罪に関わってしまう少年たちの心の内側を各方面から分析していただく中で、確実に見えてきたものがありました。人と真剣に向き合う経験のないまま、心の居場所やより所を失い、自分の存在価値を見出せない青少年と戸惑い悩む親の姿。

今、私たちに一番求められていることは何でしょうか。学校と家庭の連携はもとより「地域力」を育てる

ことではないかと考えます。それは、開かれた人間関係を構築する受け皿を積極的に提供し、社会との共生を実感しながら生きる自信を与える力といえるでしょう。毎回、約20名のいろんな立場にいらっしゃる方々が参加して下さいました。思春期の子どもをお持ちの方から子育て経験者や支援者など、講演後のグループ討議の中で自分の思いをお話しながら講師の言葉をしっかり受けとめている姿が印象的でした。

当プラザでは、今後とも「子育て」講座への取りくみを続けながら、子どもたちの健全な育ちを支え、見守っていく姿勢を大切にしていきたいと思えます。

サブコーディネーター 佐川 由美子

皆さん! ▶▶ おもちゃ文庫「ぼこ」◀◀をご存知ですか?

やさしい木工知育おもちゃ、おままごとコーナー、地域のボランティアの方が心をこめて作ってくださった布絵本などがいっぱい置いてあるお部屋で～す。

月～金の午前中は地域の子ども達(健常児の利用は未就学児)とその保護者へスペースを開放しています。子育ての先輩ママさん支援者さんが、毎日来てくれて子育てに関する相談ごとや、ちょっとした悩み事などやさしく聴いてくれます。子どもたちは楽しく遊べ、お母さん達はホット出来る場となっています。

そんなやさしい先輩ママさん支援者さん4人のご感想をご紹介します。

おもちゃ文庫に通い始めてもうじき1年になる内田です。どんどん顔見知りも増え、あちらこちらで声をかけてもらい、うれしい毎日です。「ぼこ」では、遊んだり、おしゃべりをしたりする中で、忘れかけていた「澄んだ心」のシャワーでリフレッシュ!!お母さん方、スーパー等の売り出し情報も「よろしくお願いします」。

(内田優子)

いるお母さん、一度ぼこへいらっしゃいませんか。ヨーカドーでお買い物のついでにちょっと寄って見て下さい。色々なおもちゃがありますよ。おもちゃの取り合いもたまにありますが、何回か来庫するうちお友達になります。子供の事、他色々な事、お話し致しませんか。地域で少しのお手伝いが出されれば幸いです。「皆な集れぼこへ」

(安武裕子)

はじめまして!山田です。昨年10月から「おもちゃ文庫ぼこ」でお手伝いさせていただいています。家が近いのにこんなに楽しいお部屋があることは知りませんでした。「子育てを支える会」のボランティア仲間の方からこのお話を聞いて私にもお手伝い出来るかなと思いきやメンバーに加えて頂きました。ここに来て可愛い子供さん達や若いお母さん方と遊んだりお話しをしてエネルギーを貰っています。もう忘れていた自分の子育て時代を思い出し懐かしんでいる今日この頃です。

(山田よしこ)

保育ボランティア「子育てを支える会」の会員になり、それを契機に桂台ケアプラザの子育て分科会に参加。その中でおもちゃ文庫ぼこのお手伝いをさせて頂く事になりました。グループで来庫する方、個人で来庫する方さまざまですが、何回も来庫するうちお友達になりますよ。家で親子二人で



私が子育て支援分科会のお手伝いをはじめてから早いものでもうすぐ一年になります。おもちゃ文庫が毎日のように開放されていることは、ここのお手伝いをするまで私も知りませんでした。おもちゃ文庫はお子さんだけでなく、お母さんたちの情報交換や、近況報告、ストレス解消(?)の場にもなっています。慣れた様子の子、ちょっと不安そうな子、はにかんだ表情の子、おもちゃ文庫に入ってくる時のお子さんはいろいろですが、中に入って大きなボールプール、木製の

おままごと、手作り絵本等、たくさんのおもちゃを目にした瞬間から目が輝き、何から遊ぼうかと、一緒にいるお母さんを気にしながらも夢中になっていきます。はじめはお母さんにくっついて離れなかったお子さんがにこにこしながら近づいて来ると、ほんとうにかわいくて心が和んできます。おもちゃ文庫をもっと多くの子育て中のお母さんたちにも知ってもらい、利用してもらいたいと思っています。

(鈴木睦子)

編集後記

今号から災害対策を特集しています。取材では、地域防災拠点運営委員会の方、地域医療救護拠点の学校、総務課(防災対策拠点)の方々にご協力いただき、ありがとうございました! TK

「支え合い」柱を失い 支え合う JN

災害を避けて通れるならばと祈りつつも、防災の必要性を改めて再確認させて頂き…ではどうすれば被害を最小限に抑えられ、力を合せて最悪の事態からどう脱却し、復興に向かうべきかを考えるとき、お互い同士の信頼がなければ成り立たないことに気

付きます。“隣は何をする人ぞ”にならない一声運動がいま必要とされているのではないのでしょうか。あいさつが飛び交う街角、大人も子供も声を掛け合い、助け合い、支え合い、励まし合える地域づくりこそが人々が安心できるコミュニティーの樹立になるのでは。まずは自分から大きな声で挨拶をさせて頂こうと思います。 HN

初体験!戸惑いながら、作成しました! TU

編集製作 桂台地域支え合い連絡会広報分科会
お問合せ 桂台地域ケアプラザ 897-1111 楠原、石黒